

※今年度から新たに設定された質問項目により前年比較が叶わない箇所は斜線を引いてあります。

※着色された数値は、昨年度より肯定率が低いご回答をいただいた項目となります。

保護者回答率	今年度	前年度
	98.6%	41.9%

＜保護者 回答＞		肯定率	前年比
①	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	77.7%	-10.1%
②	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	44.7%	5.4%
③	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	57.1%	0.7%
④	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	75.0%	-5.7%
⑤	子どもは、学校で学ぶことにより、必要なときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。	67.2%	-4.1%
⑥	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	68.8%	-2.2%
⑦	学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	72.8%	-8.5%
⑧	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	78.4%	-2.7%
⑨	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	78.0%	-6.8%
⑩	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	43.6%	-7.9%
⑪	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	41.4%	-1.5%
⑫	子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子ともと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。	17.8%	-3.3%
⑬	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	63.5%	-8.0%

▲全体的に肯定率が80%未満である。

⇒大部分の回答で、「どちらともいえない」の回答が多く、否定的な回答自体は、5%未満であった。ホームページ等を使って、学校の様子や活動をお知らせしていく必要性を感じた。

○例年課題となっている②の小中一貫教育の項目では、昨年よりも肯定的な割合が増えた。

⇒今年度は、部活体験など、交流する場が復活したことが大きかったと考えられる。今後は、中学生との交流授業等も行い、より連携を深めていきたいと思う。

▲⑩の教育相談体制は、大きく低下している。

⇒調査の時期にスクールカウンセラーが不在であったことが影響していると考えられる。

○⑪の障害理解については、昨年度よりも上昇している。

⇒道徳地区公開の講演や保護者との連携による成果だと考える。今後も上昇が予想される。

▲⑫の特別支援学校や特別支援学級との交流に関して、肯定率が低く、年々肯定率が低下している

⇒副籍交流や施設交流などは、計画的に進めるのが難しい。現在は、3年生に一件、直接交流があるだけで、他の学年は実施できていない。

＜児童 回答＞ ※今年度より回答対象学年を全学年としました。		肯定率	前年比
①	先生は、クラスみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	84.4%	3.5%
②	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	62.8%	10.7%
③	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	55.2%	25.3%
④	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	62.6%	6.9%
⑤	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	78.2%	-3.8%
⑥	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	84.8%	4.6%
⑦	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	80.1%	11.8%
⑧	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	87.9%	-6.7%
⑨	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	73.7%	-3.6%
⑩	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	72.1%	-8.8%
⑪	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	83.7%	8.9%
⑫	（新規）学校や家などで、一か月間に本、新聞、雑誌、調べものをするための資料などを読んだ。	81.6%	
⑬	地域の行事に参加している。	42.0%	
⑭	先生は、地域の人たちと協力し合いながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	67.1%	15.6%
○①の学級経営の項目で、9割の児童が教師の働きかけに肯定的な回答をしている。 ○③の指導の個別化の項目で、非常に高い伸び率を示している。 ⇒PUTや取り出し指導の成果であると考えられる。この項目に関しては、一斉授業であるため、全員が個別指導に満足という結果は得られにくいと考えられ、現状の50%前後が理想であると考えている。 ▲⑧⑨⑩の項目に関しては、昨年度は5・6年生のみのアンケートから今年度は、全学年となっているため、学年によっては、回答が難しかったと考えられる。来年度、同じ条件で行い、検討していく。			

＜教職員 回答＞		肯定率	前年比
①	児童・生徒や保護者から障害等への合理的配慮が求められた場合、校内委員会で検討し、実施に努めている。	87.5%	1.8%
②	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	79.2%	-6.5%
③	カリキュラム・マネジメントの視点に立って、教科間のつながりを踏まえた教育活動に取り組むとともに、計画的な評価・改善を行っている。	75.0%	-10.7%
④	各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画を作成している。	54.2%	20.8%
⑤	授業では、子どもたちが、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。	79.2%	17.3%
⑥	授業では、子どもたちが、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、一人一人に合わせて教えている。	83.3%	2.4%
⑦	授業では、子どもたちが、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。	87.5%	16.1%
⑧	授業では、子どもたちが、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている。	83.3%	2.4%
⑨	各教科等において、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	100.0%	9.5%
⑩	学習指導要領に基づく各教科等の目標や内容の系統性を理解し、学年や小・中学校の接続を踏まえた授業を行っている。	100.0%	28.6%
⑪	連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。	54.2%	11.3%
⑫	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、校内委員会で検討し、個別的教育支援計画を作成している。	95.8%	0.6%
⑬	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、個別的教育支援計画に基づく個別指導計画を作成・実施している。	100.0%	9.5%
⑭	授業や教育活動において、地域の人材を計画的に活用している。	91.7%	1.2%

教員のアンケート考察

○全体的に高い肯定率である。特にICT・小中連携・特別支援に関しては、100%の項目がある。教職員が高い意識をもって取り組んでいると考えられる。

○取り組んでそれがすぐに児童や保護者に伝わることは難しいが、教員が高い意識をもって取り組んでいるため、今後、児童・保護者アンケートでも、様々な項目で上昇することが期待される。

令和4年度教育調査結果について(令和4年12月実施) 保護者・児童の質問項目を中心に教員とCS(学校運営協議会委員)それぞれの結果を比較で紐のように一覧にしました。

項目		質問内容	保護者	児童	教員	CS	考察
学校経営	学校生活全般	【保護者】子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。 【C S】学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している。	86.2%			100.0%	全体の振り返り ・学習の個別化、探究の学び、協働的な学びの項目では、児童の肯定率より、教員の肯定率が高い。教師の意図と児童の受け取り方の差異が生じているが、児童のポイントも今日よりも伸びているので、教師の工夫は児童に伝わっていると考ええる。 ・学習の個別化では、教師と児童の肯定率に差異があり、さらに児童のポイント下がっているので、児童にあった学び方を見直しにつかませていくために、様々な工夫を継続する必要がある。 ・ICTの活用に関しては、児童の肯定率が、教員の肯定率を上回っている。教員は、ICTの活用を課題として捉え、さらに活用する必要があると考えているために、このような差異が生まれていると考える。また、保護者の肯定率が、児童のものを下回っている。これは、保護者が、活用の場面をあまり知らないためと考えられ、授業参観やお便り、学校ホームページ等に計画的に掲載し、広く周知する。 保護者アンケートの考察 ○全体として、平均で7割近い肯定率をいただき、13項目中10項目で、ポイントがあがった。 ○特に⑤学習成果の実感、⑥学習評価の2項目では、元々高い肯定率から、高い伸び率でポイント上げている。 ⇒教師が成果物の提示や振り返りなどを大切に指導を進めたことで、保護者も児童の成長を実感することができたのではないかと考える。また、学習評価も資料などを通して、保護者に丁寧に説明したことで、保護者の理解も深まったと感じる。 ○例年課題となっている②の小中一貫教育の項目では、高い伸び率があがった。 ⇒学校便りなどで中学との連携について紹介した。今後でも丁寧に広報活動を行っていく必要がある。 ▲⑩の教育相談体制では、ポイントを2ポイントの下げた。 ⇒教育相談などの体制を保護者に広く知ってもらえるような手立てを考えて、取り組む。学校便りやホームページを活用する。 ▲⑫の特別支援学校や特別支援学級との交流に関して、肯定率も2割を切り、2ポイントも下げた。 ⇒副種交流や施設交流などは、相手があることなので計画的に進めるのが難しい。現在は、6年生に一件、直接交流があるだけで、他の学年は実施できていない。
	一貫教育／異校種の協働	【保護者】連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。 【教 員】連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。	45.5%		80.0%		
	学校評価	【保護者】学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	68.7%				
学級経営		【保護者】学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。 【児 童】先生は、クラスみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。 【C S】子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている。	86.5%	90.9%		100.0%	
	学習の個性化	【児 童】授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。 【教 員】授業では、子どもたちが、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。 【C S】子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したりする力が育っている。		72.1%	93.3%	100.0%	
学習指導	指導の個別化	【児 童】授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。 【教 員】授業では、子どもたちが、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、一人一人に合わせて教えている。		62.7%	86.7%		
	探究の学び	【児 童】授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。 【教 員】授業では、子どもたちが、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。		70%	86.7%		
	協働的な学び	【児 童】授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。 【教 員】授業では、子どもたちが、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている。		82.7%	93.3%		
	学習成果の実感	【保護者】子どもは、学校で学ぶことにより、必要なときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。 【児 童】学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	77.1%	88.8%			
	学習評価	【保護者】学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。 【児 童】先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	80.7%	84.2%			
	教材教具（ICTの活用）	【保護者】学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。 【児 童】先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。 【教 員】各教科等において、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。 【C S】児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々での学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている。	68.7%	94.2%	86.7%	100.0%	
	系統的・連続的指導	【児 童】先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。		82.9%			
	道徳教育	【保護者】子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。 【児 童】道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	84.0%	80.0%			
体育・健康教育	【保護者】子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。 【児 童】先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	90.2%	87.2%				
読書活動	【児 童】（新規）学校や家などで、一か月間に本、新聞、雑誌、調べものをするための資料などを読んだ。		86.7%			児童アンケート考察 ○全体として、肯定率が大幅にあがった。14項目中、11項目で高い伸び率を示している。 ○①の学級経営の項目で、9割の児童が教師の働きかけに肯定的な回答をしている。 ○③の指導の個別化の項目で、非常に高い伸び率を示している。 ⇒教師の授業改善への意識が高まったことで、自分の個性を生かしながら、力を伸ばすことができていると感じている児童が多くなったと考える。 ▲学習の個別化の項目では、雄一ポイント下げている。教師は意識しているが、児童の受け止め方との差が見られる。 教員のアンケート考察 ○全体的に高い肯定率である。特にICT・小中連携・特別支援に関しては、100%の項目がある。教職員が高い意識をもって取り組んでいると考えられる。 ○取り組んでそれがすぐに児童や保護者に伝わることは難しいが、教員が高い意識をもって取り組んでいるため、今後、児童・保護者アンケートでも、様々な項目で上昇することが期待される。	
教育相談体制	【保護者】子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。 【児 童】（学校独自）友達や先生、家族のことで悩んだとき、学校に相談できる大人がいる。	57.5%	58.8%				
特別支援教育	【保護者】学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	45.1%					
交流及び共同学習	【保護者】子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。	18.2%					
地域と共に行なっている学校	地域行事	【児 童】地域の行事に参加している。		58.5%			
学校行事	【保護者】学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。 【児 童】先生は、地域の人たちと協力し合いながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。 【教 員】授業や教育活動において、地域の人材を計画的に活用している。 【C S】学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭や地域、民間の団体や企業等と連携している。	89.8%	79.6%	100.0%	100.0%		